

2009年 全修協 奈良環境学習セミナー

、実施の概要

1. 目的

修学旅行を通して、児童生徒の環境保全に対する思考力・判断力・実践力を育成するために、現地の人々と交流を図りながら、環境教育に関する指導内容・指導方法に関する研修会を実施する。

2. 主催 財団法人 全国修学旅行研究協会

3. 後援 関東地区公立中学校修学旅行委員会

4. 協力 奈良県修学旅行誘致促進委員会、社団法人平城遷都1300年記念事業協会、全日本空輸株式会社、近畿日本ツーリスト株式会社

5. 実施期日 平成21年8月17日(月)～19日(水) 3日間

6. 参加人員 14名(東京都・千葉県 of 公立中学・高校教師、全修協)

7. 実施箇所 奈良県：吉野町、橿原市、明日香村、桜井市、奈良市

8. 講師 山田隆文氏(奈良県立橿原考古学研究所 主任学芸員)

9. 研修箇所 吉野町：国栖の里、吉野町役場(商工観光課)

橿原市：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

明日香村：奈良県立万葉文化館、石舞台古墳、飛鳥寺

桜井市：談山神社、総本山長谷寺

奈良市：財団法人平城遷都1300年記念事業協会、平城宮跡

、セミナーの概要

8月17日(月)/快晴

羽田から大阪伊丹空港に到着。34度の気温に迎えられ、奈良交通貸切バスで奈良県吉野町に向け出発。途中、道の駅吉野路大淀iセンターで昼食をとり吉野町・国栖の里へ。

吉野川の清流で川遊びに興じる人達を車窓に吉野町南大野の集落へ。割り箸作り体験をする辰田製作所の辰田さんの出迎えを受け、炎天下の中鬱蒼とした緑の山々に囲まれた道を歩き、約10分で体験場所に到着。

辰田さんから割り箸作りの説明を受け、今日は吉野檜を使って各人思い思い割り箸作りに挑戦。見るのとやるのとは大違い、たかだか紙やすりで削るだけなのに、思ったより大変だった。

当地では植林の際、木の受光を押さえ年輪の密度を高めて良質の木材を造るため、間隔を狭めて植林し、そこからでてくる杉や檜の間伐材を利用して割り箸を作っている。最近ではニーズが多様化し屋久杉や四国の栢、会津桐などで割り箸を作ってほしいとの問い合わせもあるとのこと。

その後、奈良県地域振興部文化観光局観光振興課参事の北村辰治氏、同主任主事の大西洋亮氏と合流し、吉野町町長北岡篤氏を表敬訪問。吉野町の観光振興に関する素材や取り組みについてのお話を伺った。

辰田氏による割り箸作成の説明



完成した割り箸を前に記念撮影



8月18日(火)/快晴

8時30分にホテルを出発。途中、バスガイドさんから「壺坂靈驗記」の話を聞きながら橿原市の奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に到着。主任学芸員の山田隆文氏に、最近の発掘調査状況・成果や飛鳥時代の歴史について触れていただいた。

セミナー後に、山田氏の説明を伺いながら展示物を見学した。藤ノ木古墳から出土した、有力豪族ないし大王の近親者の副葬品である金銅制冠や豪華な玉纏大刀は素晴らしく、中でも国宝の龍文飾り金具は圧巻！全員が遠くヤマト王朝や飛鳥時代に想いを馳せながら展示物を見学していた。

奈良県立橿原考古学研究所主任学芸員 山田隆文氏セミナー要旨

橿原考古学研究所は、昨年創立70年を迎え全国でも有数の歴史を誇る機関です。附属研究所はその2年後に設立され、今までの発掘調査成果を基に90%以上を実物展示し、中には国宝・重要文化財に指定されたものもございます。また、常設展以外に年5回の企画展を開いており、来年は平城遷都1300年を記念した平城京に関する展覧会を企画しております。

最近、入館者の向上のためにいろいろな企画に取組み、一つの例として「こども考古学講座」を開いております。今年は石包丁作りをし、秋に穂首狩りを体験しますが、毎年好評をいただき恒例となっております。学校行事等で訪れる際は、要望があれば講演・セミナー等にも可能な限り応えていきたいと思っております。

最近話題になっている調査成果としては、一般的に邪馬台国の候補地の一つとされている纏向遺跡が挙げられます。考古学的にも日本最初の都市ともいわれますが、学術調査・発掘が進むにつれ大規模な土木工事の遺構、非常に整然とした建物や柵の並び、出土された土器に中国・中部など他の地域から運ばれてきたものが多くあり、このことが弥生時代の普通の集落とは異なる性格を持つことから纏向遺跡を邪馬台国と考える説があります。

また、纏向遺跡の範囲の中には箸墓古墳が含まれており、最古の前方後円墳といわれています。これは墳丘上や周辺の発掘調査で出土した土器の炭素年代測定などから、3世紀後半と考えられヤマト王朝最初の王墓とする説があります。また、纏向遺跡が邪馬台国の候補地の一つであることから、邪馬台国の女王、卑弥呼の墓ではないかといわれております。

明日香村で石垣が発掘され、新聞では蘇我蝦夷、入鹿の邸宅跡、城跡ではないかと報道

されました。私は飛鳥時代と同時代の朝鮮半島の山城の石垣が専門で、数社から朝鮮半島の城郭と非常に似ているのではないかとの問い合わせがありました。しかし城の石垣としては低過ぎ、また、一般的に切り石を使い裏止めをしますが、これは飛鳥川の河原石を使い、単に土に貼り付けているだけでとても城壁といえるものではありません。

博物館見学後は、飛鳥保存財団経営の祝戸荘で昼食。“古代食・万葉あすか葉盛御前”をいただく。見た目・質・量と三拍子揃った内容で、飛鳥時代の王族になった気分です舌鼓を打った。

炎天下の中、石舞台の前で記念撮影。山田主任学芸員の説明を受けながら石室内へ、外部とは違いひんやりとしている。両袖式の横穴式石室が露呈しているわが国における代表的な方墳で、天上石の上面が広く平らなことから“石舞台”と呼ばれる。使用した石の総重量は2,300トンとのこと。一説には蘇我入鹿の祖父蘇我馬子の墓ではないかといわれている。

引き続き短時間の移動で飛鳥寺到着。本尊の釈迦如来が「飛鳥大仏」の名で親しまれ、蘇我馬子の発願によって建立されたと伝えられる日本最古の仏教寺院である。境内見学後は、大化の改心の時、切られた蘇我入鹿の首がここまで飛んできて、そこに埋葬したといわれる“首塚”に集合。山田学芸員の説明に耳を傾けながら万葉文化館まで“飛鳥道”を辿った。

今でこそ田んぼ道となっているが、飛鳥寺の西門から南に直線に延びる小道が飛鳥時代の道そのままであり、この道を北に辿れば藤原宮の中津道につながり、さらに平城宮の東端に至る重要な道であったという。言われなければ分からないような段差であるが、そこからが宮殿内で、目を右に転じると斉明天皇が造営し天武天皇が改修したとされる飛鳥京苑池。さらに、その先の一段高くなったところが天皇が住んでいた内閣と、山田氏の説明が淀みなく流れる。さすが、歴史に興味を持ち、今ある姿を子供の頃から想い描いていた方の説明は、思いの分だけ迫力がある。まるで自分が飛鳥びとにでもなったような気持ちにしてくれる。

飛鳥寺から30分程歩いて万葉文化館に到着。2001年9月の開館であるが、建設敷地の事前発掘調査で明らかにされた「飛鳥池工房遺跡」の発掘成果をそのまま復元展示するため、当初の建設計画の変更を余儀なくされたという遺跡と共存する施設である。さすが、“国のまほろば”。どこを掘っても遺跡がごろごろしている。また、万葉文化館の建物そのものも、悠久の歴史が流れるこの飛鳥の地にあって、その地に溶け込んでいるかのような雰囲気醸し出している。

館内は、万葉の歌ごころを鑑賞する「日本画展示室」、ジオラマ・映像、アニメなどで万葉の世界を体感する「一般展示室」、遺跡との共存をめざす「特別展示室」に分かれ、見やすく、そして非常に興味深く見学した。見学後に、中西進館長からご挨拶をいただきセミナーや飛鳥散策で大変お世話になった学芸員の山田氏と別れて飛鳥を後にした。

桜井市から山道を登りつめ、多武峰談山神社に到着。

その昔、中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足（後の藤原鎌足）が蘇我入鹿を討つた

めの談合をしたことから、「大化の改新談合の地」の伝承があり、後に談峰・談い山・談所が森と呼ばれるようになったことから、「談山神社」の社号があるとの説明を禰宜待遇総務部長佐古良男氏から受け、談山神社を見学。神廟拝所で「多武峯縁起絵巻」の蘇我入鹿誅戮図や鎌足公神像を見ながら蹴毬の体験をした。

蹴毬は6～8名で行い足の甲のみで蹴る球技で、現在でも平安時代に作られたルールに沿って行われるという。毬の原材料は鹿のお尻の部分の皮を利用し、一つ20万円もする高価なものであるとのこと。その毬を蹴ってみたがなかなか思うように飛ばない。

その後、重要文化財の十三重塔、拝殿へと上ったが、陽も翳ったせいかわ涼を含んだ風が心地よくながっていた。

檀考研山田氏によるセミナー



石舞台石室内部



石舞台で記念撮影



飛鳥寺からの飛鳥道



飛鳥道でのロマン溢れる説明



談山神社神廟拝所での佐古氏の説明



8月19日(水)/快晴

8時30分にホテルを出発。今日も快晴、暑い日になりそうな予感がする。

長谷寺は観光バスの場合、駐車場から約20分程歩くのが一般的だが、今日は小型バスということもあり山道を通って長谷寺の真下にある駐車場に着く。

書記の高橋寛全氏の出迎えを受け、本坊の表書院にとおされてお茶をいただく。以前は高校教師だったという経歴を持つ教務執事の菅生和光氏から長谷寺についての説明を受けた。

長谷寺は山号が豊山(ぶざん)、寺号を長谷寺といい正式には豊山神楽院長谷寺といわれ、万葉の昔からこの地が豊初瀬、泊瀬などの名で呼ばれていたことから、初瀬寺、泊瀬寺、豊山寺とも呼ばれていた。686年に道明上人が天武天皇のために「銅板法華説相図」を西の丘に安置したことにはじまり、のち727年徳道上人が聖武天皇の勅願によって本尊十一面観世音菩薩を東の丘に祀った。以来1,300年ほどの歴史があり、願い事が叶う観音様として、奈良・平安時代から初瀬詣が盛んに行われたといわれている。

長谷寺は“花の御寺”とも呼ばれ、牡丹、桜、紫陽花、もみじ、百日紅など一年中花の見ることのできるお寺であることや、回廊の中腹に古今集に詠われた紀貫之の「人はいさ心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香にほひける」の歌碑、小林一茶の句碑。また、平安時代の枕草子、蜻蛉日記、源氏物語など多くに詠まれており、日本文学との関係から長谷寺をみることも興味深いということや、諸説あるが、「わらしべ長者」の故郷がこの地あり、初瀬の観音様に21日間参籠して長者になるきっかけの“わらしべ”をいただいたことなど、興味深いお話をいただいた。

その後、書記の高橋寛全氏の案内で大講堂内部や399段の回廊を昇って国宝の本堂に到着。本尊十一面観世音菩薩との対面の時を待つ。過去何度もの火災に合い、現在の十一面観世音菩薩立像は室町時代に造立されたもの。いずれにしても470年も前のものだ。

いよいよ十一面観世音菩薩と対面・・・といっても通された所は、観音様の「足元」、しかも黒光りしていた。一千年以上も前から「現世利益」にあずかろうと数多くの人々が詣でた証だ。参加者もそれぞれが思いを胸に足に触れていた。「清水の舞台」に似た本堂の舞台に立つと、緑の静寂を破るように蝉が合唱(合掌)していた。

バスに乗り込み昼食場所の千寿亭へ、三輪そうめんが熱いのを潤してくれた。

来年1月から開催される平城遷都1300年記念事業協会事務局を訪問。記念事業協会の広報・観客課長林 成光氏から事業計画についての説明を受けた。

平城遷都1300年祭事業計画概要

- ・会期：平成22年1月1日～12月31日(平城宮跡では4月24日～11月7日)
- ・会場：平城宮跡をメイン会場として県内各地および近県各地
- ・事業構成：

平城宮跡事業 復元された第一次大極殿正殿や朱雀門、平城宮跡資料館周辺を会場に、遣唐使船復元展示を始め平城京の歴史・文化や先人たちの国造りにかける情熱が体感できました、通季にかけてのイベントや、春・夏・秋のフェア等が繰り広げられる会場。

県内各地事業 飛鳥・藤原、斑鳩・信貴山など地域特性を活かし、イベントや社寺秘宝・秘仏の公開、伝統行事等を展開。

関連広域事業 “国宝巡礼奈良まほろば手帳” “せんとくんクーポン”（いずれも仮称）の発行。歴史的に関わりのある地ゆかりの地との国際交流、修学旅行等の誘致。

事前展開事業 250日前・100日前イベント、PRイベント等を実施。

・参集人員：全体として1,200～1,300万人（内平城宮跡会場：約250万人）

マスコットキャラクター“せんとくん”や、谷村新司作詞作曲の公式テーマソング“ムジカ”の7月リリースなど、開催に向け県挙げて本格的に始動し、全国からのお客様を迎える準備を着々と進めているとの説明があった。参加者からの意見として、修学旅行のピーク期間中の終了時刻が早いので時間延長を検討してほしいとの意見が多くあった。

説明終了後、メイン会場となる平城宮跡へ移動。奈良県修学旅行誘致促進委員会や平城遷都1300年記念事業協会の方たちと一緒に、NPO法人平城宮跡サポートネットワークの伊部和徳氏の案内で平城宮跡資料館、建設中の第一次大極殿、朱雀門を見学した。

来年には第一次大極殿正殿も完成し、その威厳と風格を備えた姿でわれわれを迎えてくれるに違いない。

バスで伊丹空港へと向かう。渋滞が予想されたが予定よりも早く到着。3日間安全運転に努めてくれた奈良交通の角藤運転手さん、そして、内容・質とも申し分のない案内をしてくれたガイドの阪東さん。お二人に感謝してバスを後にした。出発ロビーに集合後、解散式を行い羽田空港へ向かった。

研修期間3日間とも快晴、平均気温34℃。初日から徒歩での研修、そして石段や階段の昇り降り・・・でも参加者全員意外と元気。異口同音に奈良の良さを再認識したとの声が出るほど実のある研修になったと思う。奈良県修学旅行誘致促進委員会始め、この研修を支えてくれた多くの方に心から感謝を申し上げたい。

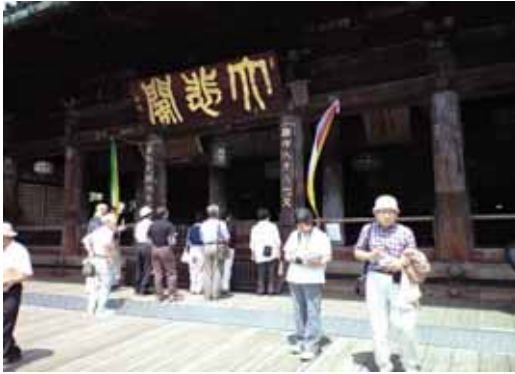
長谷寺管生教務執事による説明



長谷寺399段の登廊



長谷寺本堂



平城遷都1300年記念事業の説明



朱雀門にて記念撮影



3日間お世話になった乗務員さん



、今回のセミナーにご協力いただいた方の連絡先

奈良県修学旅行誘致促進委員会 TEL:0742-27-8435 URL:http://www.narasyugaku.jp/
 社団法人平城遷都1300年記念事業協会 TEL:0742-23-9864 URL:http://www.1300.jp/
 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 TEL:0744-24-1185 URL:http://www.kashikoken.jp/
 奈良県立万葉文化館 TEL:0744-54-1850 URL:http://www.manyo.jp/
 吉野町観光商工課 TEL:0746-32-3081 URL:http://www.town.yoshino.nara.jp/
 総本山長谷寺 TEL:0744-47-7001 URL:http://www.hasedera.or.jp/
 談山神社 TEL:0744-49-0001 URL:http://www.tanzan.or.jp/
 辰田製作所 TEL:0746-36-6205 URL:http://www.kuzunosato.jp/

、研修日程

日次	時間	スケジュール(講師および案内・解説)
第1日目 8/17 (月)	09:00 10:05 12:00 13:40 16:00 17:00	羽田空港発(ANA17便) 伊丹空港着 道の駅吉野路大淀iセンター着 昼食 国栖の里(辰田製作所)着 割り箸作り体験および製作工程見学 吉野町役場訪問 北岡 篤町長挨拶・説明「観光産業と誘客活動について」 宿舎着(ホテル杉の湯)
第2日目 8/18 (火)	08:30 09:30 11:50 13:00 13:45 14:40 16:00 18:00	宿舎発 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 セミナー開始 中西理事長挨拶 講師:山田隆文氏(橿原考古学研究所附属博物館主任学芸員) 「最新の発掘調査状況と飛鳥時代について」 祝戸荘着 昼食(古代食:万葉あすか葉盛御前) 石舞台:山田氏による案内・解説 記念撮影 飛鳥寺・飛鳥道:山田氏による解説 奈良県立万葉文化館:中西 進館長挨拶と学芸員による案内・解説 談山神社:佐古総務部長による案内・解説 宿舎着(橿原ロイヤルホテル)
第3日目 8/19 (水)	08:30 09:20 11:50 13:20 14:20 17:00 18:00 19:15	宿舎発 長谷寺:菅生総務執事および高橋書記両名による解説と案内 千寿亭 昼食 平城遷都1300年記念事業協会 林広報・観客課長による事業説明 平城宮跡:伊部理事長(NPO法人平城宮跡サポートネットワーク) による説明と案内 伊丹空港着 空港口ビーにて解散式 伊丹空港発(ANA36便) 羽田空港着 解散